

児童発達支援職員自己評価結果表

公表：2024年 2月 15日

事業所名:子ども・子育てサポートセンターまなび舎

R2年度	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制	① 利用定員は支援スペース（療育ホール）に対して適正であるか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	② 一日の職員配置数は、法令で定められている定員を満たしているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
業務改善	④ 業務改善を進めるための目標設定と振り返りを、職員と共に考えているか	10 (91%)	1 (9%)	0 (0%)		
	⑤ 保護者アンケートを実施して、保護者の意見を業務の改善に活かしているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑥ この自己評価の結果を、事務所の掲示板やホームページで公開しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑦ 職員の資質向上のための研修の機会を確保しているか	9 (75%)	3 (25%)	0 (0%)	・時間が許されるのであれば、全員がそろって受けられる研修の機会をたくさん設けてほしい ・個人での研修を受けさせてもらっている ・全員で受けられる一日職員研修日を設けると、一度に共有ができて、共通の認識も高まると思う ・事業所では研修を定期的に行っているが、自身がなかなか参加できていないので、少しでも時間を確保できるように努力したい ・自身が受けた外部の研修を、しっかりと他の職員にフィードバックできるよう努めている	・年間を通した研修日程を細分化し、より多くの職員に受けしてもらえるよう配慮すると共に、小グループによる検討会を行うなどして、研修への参加意欲を高められるような工夫を考えていく
	⑧ 子どもと保護者のニーズや課題をもとに、児童発達支援計画を作成しているか	10 (83%)	2 (17%)	0 (0%)		
	⑨ 支援計画にはガイドラインから適切な項目が選択され、具体的な支援内容が設定されているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
適切な支援の提供	⑩ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑪ 療育プログラムを他の職員に相談しながら考えているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・他の先生方の課題内容を参考にしたり、そのお子さんの課題を確認しながら考えている ・担当になった利用児の課題をリーダー職員に確認してもらい行っている	
	⑫ 療育プログラムが同じにならないよう工夫しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・以前の記録を見ながら課題を考えたり、スモールステップが必要な利用児など、一人一人に沿ってプログラムを変更している ・療育記録を細かく丁寧に分かりやすく記録できるよう心がけることで、次の療育者の課題やねらいとしてプログラムが立てやすいよう工夫している ・絵本やパネルを通じて、言葉の習慣や数字への理解、興味につながる題材を取り入れている ・絵本は利用児が療育の最後にゆったりと安心して楽しめるものになるよう、本道びに配慮している ・季節感や行事、ユーモア、食に関するものなど幅広くテーマを持ち、言葉、情緒、心の落ち着き、視覚からの情報の習得に繋げられるよう努めている	・事業所全体で療育内容の多様化や、コンテンツの密度を高めるなど、プログラムを潤沢に用意することで、利用児一人一人の成長に寄り添った支援を行っていく
	⑬ 子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動をそのつど組み合わせる支援計画を作成しているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	⑭ 始業前に職員間で打ち合わせをし、その日の支援内容や役割分担について確認しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑮ 空き時間に職員間で打ち合わせをし、日々の支援を振り返って気付いた点等を共有しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・課題内容や全体的な動きなど、いろんな先生方に教わり、共有している ・利用児の成長した部分などを話したりしながら、共通理解ができるよう努めている	・定例職員会を行い、記録を残すなどして全体共有に繋げる仕組みを作る
関係機関や保護者との連携	⑯ 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援内容の改善につなげているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑰ 定期的なモニタリングによって、児童発達支援計画の見直しを行っているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	⑱ 相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況をよく理解した者が参加しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	⑲ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携を取り合っているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	⑳ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる際、子どもの主治医等との連絡体制を整えているか	8 (67%)	3 (25%)	1 (8%)	・通所される前に気を付けた方がいいことを確認している	
	㉑ 保育所など（認定こども園、幼稚園、他）との間で、進級に向けた連携をとっているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
関係機関や保護者との連携	㉒ 小学校など（特別支援学校小学部）との間で、進学に向けた連携をとっているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	㉓ 他の支援事業所、療育センター等の専門機関と協力し、助言や研修を受けているか	10 (83%)	2 (17%)	0 (0%)		
	㉔ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	8 (67%)	4 (33%)	0 (0%)		

保護者等への説明責任等	㊦ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について確認しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・依然難しかったことができるようになったことなどを伝え、現状の様子も伝えている ・できた事を保護者の方と一緒に喜び、家での様子や関わり方を聞くと共に、こうしてほしいなどの要望にや相談を把握できるよう努めている	・保護者へのフィードバックから情報共有はもちろぬ、会話を大切にする事で安心して事業所を利用してもらえよう努めていく
	㊦ 保護者に対して、子どもと良い関係を築くためのアドバイスや関わり方の支援を行っているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・保護者の話に傾聴し、アドバイスはリーダー職員に相談したうえで、他の職員と共有している	
	㊦ 運営規定、療育の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	㊦ ガイドラインに基づいて作成された支援計画を示し説明を行い、保護者から同意を得ているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	㊦ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・わからないことは、所長やリーダー職員に相談し、適切な助言を行えるよう心掛けている	
	㊦ 苦情について、相談先を保護者に周知し、有事の際に適切に対応できる体制を整備しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	㊦ 事業所内にお知らせ（訓練・感染対策等）を掲載し、子どもや保護者に対して発信しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	㊦ 個人情報にしっかり注意しているか	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	㊦ 気持ちを伝えるのが難しい子どもと、保護者との意思疎通のための配慮をしているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)	・保護者の方から教わることも多くあるが、発語があった際は、その状況を伝えるなど、肯定的に伝えるようにしている ・恥ずかしい等の理由で気持ちを伝えるのが難しい利用児には、フィードバックの合う療育者をそばにつけるなど、優しく接するよう心がけている ・発語が困難な場合は、絵カード等を用いて視覚的に理解し、伝えることができるよう工夫をしている	・引き続き保護者と利用児との関係性を大切に、意思疎通がスムーズに行えるよう支援を行う
	非常時等の対応	㊦ 緊急対応、防犯等のマニュアルを作成し、職員や保護者の目の届く場所に配置しているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)	
㊦ 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っているか		12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
㊦ 事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか		9 (75%)	3 (25%)	0 (0%)	・予防接種の確認はわからないが、利用児の注意すべき症状などは教えてもらっている	
非常時等の対応	㊦ 虐待を防止するための職員研修を行っているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)		
	㊦ ヒヤリハット事例集を作成して、職員間で共有する体制を整備しているか	11 (92%)	1 (8%)	0 (0%)	・朝礼、ノートで情報を共有すると共に、気を付けることに関しては都度伝えてもらっている ・ヒヤリハットがあった場合には朝礼で伝えあい、職員間の共通理解に努めている ・日常の療育で気がついたことを、その都度職員間で共通理解し、事故やけがに繋がらないよう心がけている	・用意したヒヤリハット事例集に、全ての職員が気付きを書き込めるよう習慣化できる仕組みを再構築する

【まとめ】

- ・本年度は職員の充填、新人教育に力を注いだ一年であったため、来年度よりステップアップのための研修の機会をより増やしていきたいと考えている
- ・定例職員会議の精度アップを行い、具体的な技術指導などで職員間の情報共有やモチベーションアップに努める
- ・事例集の実用化を目標に、日頃のヒヤリハットを書き留める習慣をもてる工夫を行う
- ・情報共有のための仕組みを再度検討し、情報の洩れや意識の低下を防ぐようにしていきたい
- ・研修や実際の対応事例を通して、職員のスキルアップに加え目的意識を明確に持つことで、今以上に良い支援の提供を目指していく